

[様式 9 - 1]

## 福祉サービス等第三者評価結果

## 総合評価

受診施設名	京都市梅津北児童館	施設種別	児童館
評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク「一期一会」		

2014年2月5日

総 評	<p>京都市梅津北児童館は平成22年7月に地元の要望から生まれた児童館であり、京都市全域の児童館の指導的立場である公益社会福祉法人京都市児童館連盟が管理運営を行っておられます。今回自ら事業運営の振り返りを行い、質の向上に向けた取り組みを図るため、初めて第三者評価を受診されました。</p> <p>理念や基本方針を児童館の使命や活動指針をもとに職員間で検討・議論して作り上げられたという事は大変すばらしい事であり、活動の随所にその理念が生きていました。学校と家庭の間にあり、暖かさを持ち、社会性を育てるという児童館ならではの役割を持ち、子どもたちを育てておられました。</p> <p>地域に広報紙を配布したり、地域の代表で構成される「運営協力会」も組織され、地域との連携を密に活動されており、地域とつながろうとする思いが力になっていました。</p> <p>また、乳幼児支援では全国的にも先駆的な取り組みをされている右京区にあって他児童館とも連携しながら支援を展開されていました。また、乳幼児から高校生という幅広い子どもたちの要望に耳を傾けさまざまなクラブや催しを展開されていました。なにより、子どもや保護者一人ひとりの顔を見て声をかわし、表情・心情を察知し寄り添う事に力を入れておられました。</p> <p>子どもの地域での関わりが少なくなった中で地域で子どもを育てる児童館の役割は大きい。今後も地域のニーズを的確に掴み地域の児童館として子どもたちを育み、子育ての支援を展開される事を期待します。</p> <p>具体的なアドバイスは以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・管理者の評価の把握については、連盟の館長会で交換しヒヤリングを行うなど自らの行動が職員や利用者にとどのような評価を得てるか聞き取る工夫をされたらなお充実するのではないのでしょうか。</li> <li>・希望があれば職員が相談できるような、専門のカウンセラーの確保については、法人で確保し紹介するなどの方法を取られたらいかがでしょうか。</li> </ul>
-----	--

<p>特に良かった点(※)</p>	<p><b>Ⅱ－２－（３）職員の質の向上に向けた体制が確立されている。</b> 職員一人ひとりについて研修計画が策定されており、それに基づく研修が実施されている。研修状況を把握し、研修内容の見直しを行っている。右京区独自の研修として、一週間の交換派遣研修を実施しており、他児童館とも連携しながら資質の向上を図っている。</p> <p><b>Ⅱ－４－（３）地域の福祉向上のための取り組みをしている</b> 学校の中にある環境もあり、絶えず学校との連携を行い、ニーズを把握している。また、見守り隊からの情報を聴くなど、地域のニーズ把握にも努めている。乳児クラブの時間や内容はニーズを聞き取り変更している。小学校PTAからのニーズで、PTA活動中の児童の居場所作りを児童館で行うなどの取り組みをしている。</p> <p><b>A－４ 中高生への対応</b> 中高生が自ら企画するバスケット大会など、中高生タイムの拡大判として開館時間を延長した取組みが定期的に行われている。また、中学校のチャレンジ学習の場として実習生を受け入れたり、児童館の夏まつりでは中高生が模擬店を出す場を提供している。</p>
<p>特に改善が望まれる点(※)</p>	<p><b>I－３－（１）①管理者の自らの役割と責任を表明している。</b> 管理者の役割と責任は、京都市児童館活動指針にも明記されている。職員から管理者を評価するシステムがなかった。</p> <p><b>Ⅱ－２－（２）②職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。</b> 月始めには勤務状況を把握している。定期的に職員と面談し、本人の意向や希望を聴く機会を作っているが、希望があれば職員が相談できるように、専門のカウンセラー等の紹介がなされていない。</p>

※それぞれ内容を3点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。

# 京都府福祉サービス等第三者評価事業

[様式9-2]

---

## 【共通評価基準】 児童館版

### 評価結果対比シート

---

受診施設名	京都市梅津北児童館
施設種別	児童館
評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク「一期一会」
訪問調査日	2013年12月3日

## I 福祉サービスの基本方針と組織

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
I-1 理念・基本方針	I-1-1(1) 理念、基本方針が確立されている。	① 理念が明文化されている。	a	a
		② 理念に基づく基本方針が明文化されている。	a	a
	I-1-1(2) 理念、基本方針が周知されている。	① 理念や基本方針が職員に周知されている。	a	a
		② 理念や基本方針が利用者等に周知されている。	a	a
I-2 計画の策定	I-2-1(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	① 中・長期計画が策定されている。	a	a
		② 中・長期計画を踏まえた事業計画が策定されている。	a	a
	I-2-1(2) 計画が適切に策定されている。	① 計画の策定が組織的に行われている。	a	a
		② 計画が職員や利用者等に周知されている。	a	a
I-3 管理者の責任とリーダーシップ	I-3-1(1) 管理者の責任が明確にされている。	① 管理者自らの役割と責任を職員に対して表明している。	a	b
		② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。	a	a
	I-3-1(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。	① 質の向上に意欲を持ちその取り組みに指導力を発揮している。	a	a
		② 経営や業務の効率化と改善に向けた取り組みに指導力を発揮している。	a	a

## 【自由記述欄】

I-1-1(1)	理念・基本方針は京都市の全児童館の職員の為に作成された活動指針を基に、開設時に職員間で検討、討議して作り上げ、明文化されている。
I-1-1(2)	①理念・基本方針について、職員の異動があった場合には研修で周知をはかっている。 ②理念・基本方針はパンフレットに掲載し、入会説明会でも伝えている。また、自治会の会長、民生児童委員などで組織する児童館運営協力が組織されており、その会合でも説明されている。
I-2-1(1)	①中長期計画は、職員参画のもと地域のニーズを踏まえ今後のあるべき姿を見据えた上で策定されている。 ②各事業年度の計画は、中長期計画の内容を反映し、策定されている。
I-2-1(2)	①単年度計画は、前年度の反省や評価を踏まえ、全職員・利用者の意見を取り入れて策定されている。 ②作成された計画書は、保護者懇談会や乳幼児クラブ等で保護者に説明を行い、地域には児童館運営協力で伝え回覧している。
I-3-1(1)	①管理者の役割と責任は、京都市児童館活動指針に明記されている。管理者が、自らの行動について職員や利用者から信頼を得ているかどうかを把握・評価・見直しする仕組みとして、管理者自らがヒヤリングで聴くだけでは良い評価しが得られにくく、充分と言えません。その方法として、管理者の上位者や連盟の他の管理者が出向きヒヤリングやアンケートを行なう等、客観的な評価を得る方法が考えられます。実際この項目は大変高いレベルが求められておりむずかしい項目です。ご検討ください。 ②遵守されるべき法令についての研修に管理者が積極的に参加し、職員への周知も図っている。
I-3-1(2)	①管理者は利用者のあらゆるニーズに応える事が出来るような体制を普段から職員と話し合い、具体的な取り組みを通して、質の向上に努めている。 ②経営や業務の効率化について、月1回専属の会計士にアドバイスを受けており、改善の取り組みを行っている。

## II 組織の運営管理

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
II-1 経営状況の把握	II-1-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	① 事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。	a	a
		② 経営状況を分析して改善すべき課題を発見する取り組みを行っている。	a	a
		③ 外部監査が実施されている。	a	a
II-2 人材の確保・養成	II-2-(1) 人事管理の体制が整備されている。	① 必要な人材に関する具体的なプランが確立している。	a	a
		② 人事考課が客観的な基準に基づいて行われている。	a	a
	II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	① 職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	a	b
		② 福利厚生事業に積極的に取り組んでいる。	a	a
	II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	① 職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	a	a
		② 個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取り組みが行われている。	a	a
		③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	a	a
	II-2-(4) 実習生の受入れが適切に行われている。	① 実習生の受入れに対する基本的な姿勢を明確にし、体制を整備している。	b	a
② 実習生の育成について積極的な取り組みを行っている。		b	b	
II-3 安全管理	II-3-(1) 利用者の安全を確保するための取り組みが行われている。	① 緊急時(事故、感染症の発生時など)の対応など利用者の安全確保のための体制が整備されている。	a	a
		② 利用者の安全確保のためにリスクを把握し対策を実行している。	a	a
II-4 地域との交流と連携	II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。	① 利用者地域とのかかわりを大切にしている。	a	a
		② 事業所が有する機能を地域に還元している。	a	a
		③ ボランティア受入れに対する基本姿勢を明確にし、体制を確立している。	a	a
	II-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。	① 必要な社会資源を明確にしている。	a	a
		② 関係機関等との連携が適切に行われている。	a	a
	II-4-(3) 地域の福祉向上のための取り組みを行っている。	① 地域の福祉ニーズを把握している。	a	a
		② 地域の福祉ニーズに基づく事業・活動が行われている。	a	a

## 【自由記述欄】

II-1-(1)	①自治会や学校、支援センターなどの各機関との連携により、ニーズを把握している。 ②改善すべき課題について専属の会計士と連携しながら経営状況を分析し、職員にも周知して改善している。 ③外部監査が実施されており、経営改善がなされている。
II-2-(1)	①人材に関する考え方は京都市児童館学童連盟で規定しており、それに基づく人事管理がされている。 ②人事考課制度を確立し、資質の向上を図っている。
II-2-(2)	①定期的に職員と面談し希望を聴く機会を作っているが、専門のカウンセラー等の紹介はされていなかった。 ②共済会に加入し、福利厚生を利用している。また、職員交流会、スポーツ交流会を企画している。
II-2-(3)	①児童館活動指針に沿った研修の体制が確立されている。右京区独自の研修として、一週間の交換派遣研修を実施している。 ②③職員一人ひとりについて研修計画が策定されており、それに基づく研修が実施されている。研修状況を把握し、研修内容の見直しを行っている。
II-2-(4)	①実習生を受け入れる体制等は整っている。 ②これまでのところは、実習生の受け入を行っていない。
II-3-(1)	①②事故対策は事例について職員で話し合い、分析し、対策を講じている。

Ⅱ-4-(1)	<p>①広報紙を地域に250部配布している。地域の代表で組織する運営協力会では、地域の実情と課題や児童館に対する課題を話し合う場となっている。また、乳幼児保護者が自由にお弁当を摂ったり、ティータイムできる場の設定を行い、交流を促進している。</p> <p>②地域に向けて子育てに対する相談窓口を常時開いている。また、専門家による育児に関する講習会を随時開催している。</p> <p>③卓球、将棋クラブ、夏祭りのお手伝いなどボランティアを幅広く受け入れている。面接による選考や研修も行っている。</p>
Ⅱ-4-(2)	<p>①地域の関係機関、団体のリスト化をし、職員間の共有も図られている。</p> <p>②学校、児童相談所、保育所等と連携し、必要があればケース会議を行っている。</p>
Ⅱ-4-(3)	<p>①施設が学校の敷地内にあり、絶えず学校との連携を行い、ニーズを把握している。また、見守り隊からの情報を聞くなど、地域のニーズ把握にも努めている。</p> <p>②乳児クラブの時間や内容は保護者からのニーズを聞き取り変更している。小学校PTAからのニーズで、PTA活動中の児童の居場所作りを児童館で行うなどの取り組みをしている。</p>

## Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果		
			自己評価	第三者評価	
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-1(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	① 利用者を尊重したサービス提供について共通の理解をもつための取り組みを行っている。	a	a	
		② 利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備している。	a	a	
	Ⅲ-1-1(2) 利用者満足の向上に努めている。	① 利用者満足の向上に意図した仕組みを整備している。	a	a	
		② 利用者満足の向上に向けた取り組みを行っている。	a	a	
	Ⅲ-1-1(3) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	① 利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備している。	a	a	
		② 苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している。	a	a	
		③ 利用者からの意見等に対して迅速に対応している。	a	a	
	Ⅲ-2 サービスの質の確保	Ⅲ-2-1(1) 質の向上に向けた取り組みが組織的に行われている。	① サービス内容について定期的に評価を行う体制を整備している。	a	a
			② 評価の結果に基づき組織として取り組むべき課題を明確にしている。	a	a
③ 課題に対する改善策・改善計画を立て実施している。			a	a	
Ⅲ-2-1(2) 個々のサービスの標準的な実施方法が確立している。		① 個々のサービスについて標準的な実施方法が文書化されサービスが提供されている。	a	a	
		② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a	a	
Ⅲ-2-1(3) サービス実施の記録が適切に行われている。		① 利用者に関するサービス実施状況の記録が適切に行われている。	a	a	
		② 利用者に関する記録の管理体制が確立している。	a	a	
		③ 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している。	a	a	
Ⅲ-3 サービスの開始・継続		Ⅲ-3-1(1) サービス提供の開始が適切に行われている。	① 利用希望者に対して活動選択に必要な情報を提供している。	a	a
	② サービスの開始にあたり利用者等に説明し同意を得ている。		a	a	
Ⅲ-4 サービス実施計画の策定	Ⅲ-4-1(2) 利用者に対するサービス実施計画が策定されている。	① サービス実施計画を適切に策定している。	a	a	
		② 定期的にサービス実施計画の評価・見直しを行っている。	a	a	

## 【自由記述欄】

Ⅲ-1-1(1)	①利用者を尊重した基本姿勢については、研修を繰り返し、修得した知識や援助技術をグループワークや個別援助に取り入れている。 ②プライバシー保護のマニュアルを整備し、研修も行っている。
Ⅲ-1-1(2)	①利用者の意向については各担当の職員が日常的な聞き取りやアンケートを行い、個別面談も行って聞き取っている。 ②利用者の要望は担当者で分析・検討後に職員会議で討議し、それぞれの事業に反映させている。 ③子どもたちの表情・心情を察知し常に言葉かけをすることで意見を聞き出したり、相談しやすい環境を作っている。
Ⅲ-1-1(3)	①苦情マニュアルを作成し、苦情体制を整備している。苦情があった場合は職員全員で改善策を話し合い対応、内容によっては結果等を公表している。 ②受け入れの時間やおやつ時間、またPTA活動中の子どもの見守りなど、利用者からの意見に対し迅速に対応している。
Ⅲ-2-1(1)	①②③地域・他事業所との連携や、研修・事務など、本来の子どもたちの育成や見守り業務に加え、職員間での職務配分が整っており、サービスの質の確保のための「年間計画」作成や、月1回「職員会議」、毎朝の「朝礼」、入念な「行事担当者会議」が開催され、定期的に評価を行い課題を明確にしている。
Ⅲ-2-1(2)	①個々のサービスについて、「ねらい」や「目的」「テーマ」を設定し、実施方法を明文化して実施している。 ②利用者懇談会や運営協力会に提示し、見直しを行っている。
Ⅲ-2-1(3)	①日々の活動に関する日誌・記録が作成されており、ニーズを振り返りながら次へ繋げていく支援が行われている。 ②利用者に関する情報の記録管理について規程が整備され、セキュリティーについて独自に法人と取り決めを行うなど、適切に管理されている。 ③毎朝職員朝礼を行うなど、絶えず職員間で情報の共有が図られている。
Ⅲ-3-1(1)	①「うめづきたじどうかんだより」「学童クラブだより」「乳幼児クラブだより」等、子どもたちの成長の過程に沿ったお便りを毎月作成しており、訪問時に受け取りができる。また、子どもたち・保護者の方向けの情報チラシを自由に持ち帰れるようにしている。 ②活動開始については「入会説明会」の開催や「乳幼児クラブのしおり」等で内容の説明を行い、同意を得ている。
Ⅲ-4-1(1)	①活動計画策定の責任者を決め、職員会議で計画に関する議論や合意を行い、実施後の反省を踏まえ次年度の計画に反映させている。 ②活動計画の見直しは随時行っている。年間計画については、半期で各事業計画の評価、見直しを行っている。

# 京都府福祉サービス等第三者評価事業

[様式9-2]

---

## 【付加基準】 評価結果対比シート

### 児童館

---

受診施設名	京都市梅津北児童館
施設種別	児童館
評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク「一期一会」
訪問調査日	2013年12月3日

**【付加基準】児童館版 評価結果対比シート**

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
A 児童館等の活動に関する事項 (小型児童館・児童センター用付加基準)	A-1 遊びの環境整備	① 遊ぶ際に守るべき事項(きまり)が、利用者に理解できるように決められている	a	a
		② 乳幼児から中高生までの児童すべてが日常的に気軽に利用できる環境がある	a	a
		③ 利用者が自発的かつ創造的に活動できるように環境を整備している	a	a
		④ くつろいだり、休憩したりするふれあいスペースを作っている	a	a
		⑤ 幅広い年齢の児童が交流できる場が日常的に設定されている	a	a

**【自由記述欄】**

A-1①	小学校の敷地内に設置されている児童館のため、遊ぶ際の決まりは学校の決まりに準じており、館内の廊下等に分かりやすく掲示がされている。
A-1②	乳幼児対象のクラブを午前中に設けることで週に100組ほどの親子が児童館を利用しており、午後は学童クラブや自由来館の児童、夕方からは中高生の利用がある。特に、17時から18時30分は中高生タイムとなっており、部活帰りの中高生が利用しやすい工夫がされている。
A-1③	各部屋で利用者が自分たちで遊べるように、分かりやすく遊具が設置されていた。職員は見守りながらも、子供達が独創的な遊びが出来るように遊びのルールの提案などを行っていた。
A-1④	乳幼児対象のクラブなどで遊戯室を使用する場合は、他の利用者へ図書室や育成室などの部屋を開放してスペースを分ける事で、異年齢の利用者が気持ちよく利用できるよう臨機応変にスペースを活用し対応されている。また、異年齢の利用者が同じスペースを利用する際には、配慮が必要な利用者があることを他の利用者へ伝える事で、お互いに思いやりながら利用がされていた。
A-1⑤	日常的に乳幼児から中高生までの利用があり、学校の夏期休業中や土曜日には異年齢が交流できる行事やクラブ活動が設定されている。

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
A 児童館等の活動に関する事項 (小型児童館・児童センター用付加基準)	A-2 乳幼児と保護者への対応	① 乳幼児と保護者が日常的に利用している	a	a
		② 乳幼児活動が年間を通じて実施されており、その内容が参加者のニーズに基づいたものになっている	a	a
		③ 保護者同士が交流する機会が設けられており、保護者が企画や運営に参加している	a	a

**【自由記述欄】**

A-2①	定期的に乳幼児クラブを開催することで、乳幼児と保護者が日常的に利用している。右京区の子育て冊子にも児童館の情報が載っており、自由来館の親子もみられる。また、昼食をとれるスペースを提供することで、親子が気軽に利用し、交流や情報交換の場となっている。
A-2②	3つの年齢別の乳幼児クラブが開催されており、約100組の親子が登録している。それ以外に、自由参加のプログラムとして、「絵本の読み聞かせ」「歌・お遊戯」「身体測定」が行われていた。また、保護者対象の相談会や子育て講座なども積極的に開催されていた。
A-2③	クリスマスコンサートの際には保護者が演奏者として加わったり、クリスマス会や夏祭りにも保護者が主体的に参加できる場が設けられている。また、土曜日に開催している運動会には、母親だけでなく、父親や祖父母の参加がある。

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
A 児童館等の活動に関する事項 (小型児童館・児童センター用付加基準)	A-3 小学生への対応(核となる児童館活動)	① 職員が個々の児童の状態や心理を考慮して適切に援助している	a	a
		② 職員が個別・集団援助技術を念頭において、個人や集団の成長に向けて働きかけている	a	a
		③ 障害の有無や国籍の違いを超えて、児童と一緒に遊びお互いに理解を深める取り組みが行われている	a	a
		④ 行事やクラブ活動が、日常活動とのバランスや児童の自主性・主体性を育てることを意識して企画されている	a	a

**【自由記述欄】**

A-3①	児童同士のトラブルなどはその場で対応するとともに、終わりの会で全体へ話すなど、子供の成長に配慮した対応がされている。児童館だけでは対応できないケースについては、保護者へ連絡を取ったり、家庭訪問をしたりするとともに、学校の担任教員と連携をとって対応している。
A-3②	職員は研修を通じて、個別・集団援助技術を身につけ、研修で学んだ技術をいかして集団活動やグループ活動、個別の遊びなどを通じて児童に関わっている。
A-3③	障害のある児童や国籍の違う児童も積極的に受け入れを行っており、障害のある児童には集団の中でも落ち着けるスペースの確保をするなど工夫をし、障害への配慮がなされている。
A-3④	「将棋」「切り紙」「音楽」「パフォーマンス」などの幅広い分野のクラブ活動があり、児童が自分の好みにあわせて参加ができるよう日程なども工夫がされている。これらのクラブ活動や日常の班活動、当番活動などを通じ、自主性・主体性・協調性を育むように心がけられている。

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
A 児童館等の活動に関する事項 (小型児童館・児童センター用付加基準)	A-4 中高生への対応	① 日常的に中高生の利用がある	a	a
		② 中高生が主体性や社会性を養えるような活動を継続して実施している	a	a
	A-5 利用者からの相談への対応	① 利用者からの相談への対応が自然な形で行われている	a	a
		② 虐待を受けた児童や不登校児への支援体制が整っている	a	a
	A-6 障害児への対応	① 障害のある児童の利用に対する支援策が整っている	a	a

## 【自由記述欄】

A-4①	中高生は18時30分まで利用可能となっているため、部活帰りに利用されており、卓球や勉強やゲームなど、個々に応じた取組みが出来る場を用意している。
A-4②	中高生が自ら企画するバスケットボール大会など、中高生タイムの拡大版として開館時間を延長した取組みが定期的に行われている。また、中学校のチャレンジ学習の場として実習生を受け入れたり、児童館の夏まつりでは中高生が模擬店を出す場を提供している。
A-5①	自由遊びの場や昼食時には、職員が同じ場に入る事で自然に利用者が相談できる機会を作っており、児童館だけでは解決できない問題については児童相談所や学校なども積極的に連携がとられている。
A-5②	児童虐待に関する研修や、虐待への対処に関する研修を職員が受けており、小学校や児童相談所と連携をとりながら情報の共有を定期的に行っている。不登校児童については、家庭訪問も積極的に行っている。
A-6①	障害のある児童には個人ファイル作成し、経過や支援策について常に職員間で検討されている。学童クラブ登録時は、学校を訪問して状況報告所を作成し、必要な児童には京都市児童館の介助者制度による介助者の利用が可能であり、学童クラブ終了後も様々な事業により長期的なサポートがされている。

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
A 児童館等の活動に関する事項 (小型児童館・児童センター用付加基準)	A-7 地域の子育て環境づくり	① 住民による子育て支援活動や健全育成活動を促進している	a	a
		② 地域社会で児童が安全に過ごせるような取り組みをしている	a	a
	A-8 広報活動	① 広報活動が適切に行われている	a	a
		② 児童館の活動内容をわかりやすく知らせ、利用促進につながるように創意ある広報活動が行われている	a	a

## 【自由記述欄】

A-7①	地域や学校などから作られる児童館運営協会の委員会が定期的に開催され、情報交換や課題の検討、行事の企画・運営などについて話し合われている。また、民生・児童委員や少年補導委員会、小学校PTAなどの地域の各種団体と相互に協力をしながら活動や取り組みを行っている。
A-7②	学童クラブの帰宅は、地域別のグループでの帰宅の形をとり、帰宅経路についても小学校の集団登校経路を参考に職員が実際に歩いて決定し、保護者の了解をとっている。また、地域の自治連合会に見守りの協力をお願いしている。
A-8①	月1回のおたよりは、学童クラブに登録する児童が通う小学校の全戸へ配布され、自治連合会を通じて町内への回覧もおこない、関係機関や団体へは直接配布している。また、京都市児童館連盟のホームページにもおたよりを掲載し、広く広報をおこなっている。
A-8②	おたよりは、配布対象者ごとに区別をし、対象者のニーズにあった内容になるように工夫をしている。また、分かりやすく伝えるために写真や図を入れレイアウトを考えている。